



JOHN HUSTON'S
THE
D E A D

秘そやかに虚空より舞う雪は、生者の上にも
死者の上にも優しく降りつづけた…
故ジョン・ヒューストン監督、生涯の二作。



ザ・デッド
「ダブリン市民」より

監督：ジョン・ヒューストン/原作：ジェームズ・ジョイス/脚本：トニー・ヒューストン/撮影：フレッド・マーフィ/音楽：アレックス・ノース
製作：ウォーランド・シュルツ・カイル、クリス・シュバーニヒ/衣裳：ドロシー・ジェイキンス/美術：スティーヴン・グライムス
アンジェリカ・ヒューストン/ドナル・マックラン/ヘレナ・キャロル/キャスリーン・デラニー/マリー・キーン/1987年/アメリカ映画/カラー/ビスタサイズ
■フジテレビジョン+ヘラルド・エース提供 ■ヘラルド・エース、日本ヘラルド映画配給



ザ・デッド

—「ダブリン市民」より—

原作 ジェイムズ・ジョイス

『ザ・デッド』は、アイルランドの都市ダブリンとダブリン人の意識の流れを描いた傑作として名高い、ジェイムズ・ジョイスの『ダブリン市民』の一篇『死せる人々』(The Dead)を忠実に映画化したものである。

ジョイスの文学世界は、宗教に負うところが大きい。物語の流れよりも感情の流れを優先し、超自然的な精神の昂揚をもって文章を成立させている。従って文学として完成されているジョイス作品を映像化することは困難な作業とされてきた。



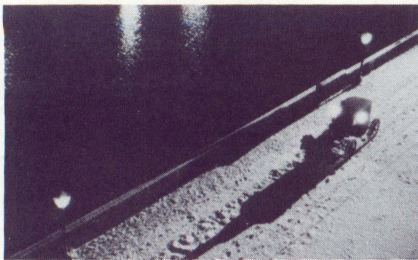
過去に大作『ユリシーズ』が実験映画作家ヴェルナー・ネケスらによって何度か映画化の試みはなされてきたが、『ダブリン市民』の一篇が映画作品となるのは初めてである。

監督 ジョン・ヒューストン

ハンフリー・ボガートの出世作『マルタの鷹』(41)で監督デビューして以来、近年の『女と男の名誉』(85)まで数々のエンターテインメント作品を手がけてきたハリウッドの巨匠ジョン・ヒューストン。彼は『チャイナタウン』(74)や『モモ』(87)などで俳優としても活躍、真の「映画人」として50余年、旺盛な創作活動を続けてきた。

『ザ・デッド』は、1987年8月28日、81歳でこの世を去ったヒューストンの40本目の監督作にして遺作となった映画である。

その生き生きとして精緻な人物描写と、降りしきる雪に透明な生死観を仮託した幕切れが印象的な原作を、見事なまでの冴えて映像化している。画面の持つ輝きと香気、適役揃いの演技陣、老いを全く感じさせない瑞々しく張りのある演出、どれを取っても巨匠最後の傑作と呼ぶにふさわしい出来ばえである。



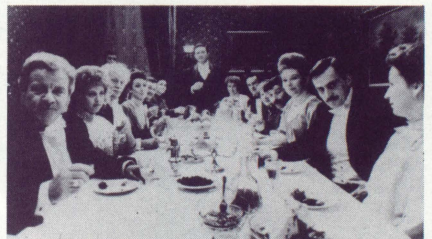
誰も映像にしえなかった
ジェイムズ・ジョイスの
ポエティックな世界をついに映画化。
巨匠ジョン・ヒューストンが
死を賭して手がけた、生涯の一作。

父 (J・ヒューストン)に学び、父を支える
アンジェリカ、トニー兄妹。

『ザ・デッド』のクランク・インより、既にJ・ヒューストンのからだは病魔に冒され、車イスによる撮影が続いた。彼を支えてきたスタッフの一人に彼の息子にして本作の脚本を担当したトニーがいた。トニーは、幼い頃から父の影響を受け、助監督、映画宣伝などに携わってきた。

また、グレッタ役のアンジェリカは、『愛と死の果てるまで』(69)、『女と男の名誉』(85)に続いて父、ジョンの作品に三度目の出演となる。

さらに、製作に『火山のもとで』(84)のW・S・カイルと『パリ、テキサス』(84)のC・ジーベルニヒ。撮影は『バウンティフルへの旅』(85)のF・マーフィ。音楽は『イグアナの夜』(64)のアレックス・ノースが担当。強力なスタッフ、キャスト陣が脇を固めている。



物語 1904年、アイルランドの港町、ダブリン。ガブリエル夫妻は、モーガン姉妹とメリー(1・クレイギー)が毎年、クリスマスに主催する舞踏会を訪れる。

マリッジ夫人(M・キーン)の息子、フレディ(D・ドネリー)は6日前に禁酒を誓ったはずだったが、泥酔状態でやってきた。彼の服装を整えてやるのがガブリエル(D・マックキャン)の最初の仕事となった。

メリーのピアノに合わせてダンスが始まった。ガブリエルと踊るメリー嬢(M・マクダモトロー)は、耳もとで『G・Cってだあれ?』と呟いた。G・Cは、ガブリエルが在アイルランドの大学教授として英国の新聞に書いているコラムの署名だった。誇り高いアイルランド女性メリーは、彼の無節操な行ないが気に入らなかったのだ。

舞踏会が無事に終わり、帰路につこうとしたガブリエルの妻、グレッタ(A・ヒューストン)の耳にダーシー氏(F・パターソン)の歌う『オーリムの乙女』が聞こえてきた。帰りの馬車の中でグレッタは一言も口を聞かなかった。彼女は、若き頃、自分を愛してくれた、今は亡きマイケル・フェリーのことを思い出すのであった……。

●スタッフ
製作：W・シユルツ・カイル
クリス・シユバーニヒ
原作：ジェイムズ・ジョイス
「ダブリン市民」より
(新潮文庫)
監督：ジョン・ヒューストン
脚本：トニー・ヒューストン
撮影：フレッド・マーフィ
音楽：アレックス・ノース

●キャスト
ガブリエル・コロイ：ドナルド・マクキャン
グレッタ・コロイ：アンジェリカ・ヒューストン
ジュリア・モカン：キマリー・デレイニー
ケイト・モカン：シナ・キヨル
フレディ・マリッジ：ドナルド・ネリー
マリッジ夫人：マリー・キーン

1987年/カラー/ビスタサイズ/アメリカ映画/1時間23分 ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画

9月上旬よりロードショー!

日・祝のみ追加	平	日	土のみ追加
朝11:00	1:00	3:00	5:00
			7:00
			夜9:00

●自由席定員制・入替制

CINE VIVANT
シネマ・ウィヴァン・六本木

地下鉄六本木駅下車
1番出口 WAVE 地下1階
☎03(403)6061
WAVE 地下1階

■前売鑑賞券絶賛発売中!!

一般・学生1,200円

(当日料金=一般1,500円・学生1,300円のところ)